

ときめき人

Tokimeki bito

中学生生活最後の貴重な経験 U-15軟式野球 アジア選手権大会準優勝



東北選抜チームメンバー。前列左から伊藤拳(豊里中3年)、日野太陽(津山中3年)、小野寺想永(佐沼中3年)、佐藤蓮(佐沼中3年)、千葉道斗(佐沼中3年)

「大会制覇が目標でしたが、準優勝に悔いはありません。野球人生のトップ3に入るくらい集中した試合を経験できたので」と5人は口を揃えた。

第7回U-15軟式野球アジア選手権大会は11月19日から22日の4日間、台湾で開催され、東北選抜チームの一員として市内中学校の野球部から5人が出場した。

大会は、台湾の7チームと日本の東北、北海道、福岡の選抜3チームで優勝を争った。予選リーグを順調に勝ち抜き、決勝トーナメントへ。準決勝は北海道と対戦。最終の7回が終わった時点で1対1の同点。ノーアウト満塁から始まる特別延長に突入した。8回に両チーム共に1点を追加。9回裏、センター前に相手の浅いフライが飛び、サヨナラ負けかと思われたが、セカンド日野がダイビン

グキャッチ。窮地を救い、流れを呼び込んだ。10回表、キャプテン齋賀矢(仙台市立六郷中)が走者一掃の2塁打で、一挙に3点を追加。裏の攻撃を1点に抑えて試合終了。5対3で熱戦を制した。決勝戦の相手は福岡。北海道との戦いで、体力的にも精神的にも消耗していた東北は、気が付けば1対7で試合終了。準優勝で幕を閉じた。

大橋俊一監督は「一人一人の働きが準優勝につながった。このチームの一員だったことに誇りを持ち、次のステージではテッペンを目指してほしい」とエールを送る。高校でも野球を続けたいという5人の志望校はそれぞれ違うが「このメンバーで野球ができたことはいい経験になりました。次会う時はライバル同士。対戦した時、恥ずかしくないように成長していきたい」と再会を誓った。

編集後記

▼正月は箱根駅伝をテレビで観戦。青山学院大の5連覇と想われていましたが、東海大が見事初優勝を果たしました。その陰には地道で厳しい練習が、栄光への近道はないと実感しました。日々勉強を重ね、少しでも成長できる一年にしたいと思います。(高橋)

▼寒空の下、ときめき人取材。数パターンに及ぶ写真撮影に元気よく付き合ってもらいました。本文では伝えきれませんでした。台湾でもう一つの活躍がありました。大会2日後に出場した台北市の野球大会では優勝を果たし、伊藤君は大会MVPに。おめでとうございました。(小野寺)

▼病院で診察待ちの時に、高校生くらいの子が松葉づえで歩いているのを見かけました。私も高校生の頃、松葉づえで生活していた期間があり、今こうして普通に歩き、生活できることのがたみを感じました。何事にも感謝の気持ちを忘れないように過ごしていきたいと思います。(三浦)



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)

<https://mail.cous.jp/tomecity/>

